

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 (政策)	番号	7	名称	快適な生活を育むまち			
施策	番号	8	名称	人と自然が共生できる地域づくり			
主担当部	生涯学習部		主担当課	昆虫館		部長名	榎谷 仁志
関係部	魅力創造部		関係課	産業振興課			

2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)

この施策の目的	市民が自然と触れ合うことを楽しみ、生物多様性を保全しながら生活を送ることができるまちを目指します。そのために、NPO・ボランティア団体等と連携し、里山環境や水辺環境等の保全及び活用を進め、自然・環境、生物多様性に関する情報を提供し、社会教育の機会として、展示、講座、観察教室等のイベントを行います。
---------	---

3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、施策を取り巻く環境について
	子どもたちを中心とした地域住民が安心・安全に身近で自然に触れあうことができる環境づくりが求められています。そのため、里山・里地を整備し、飛鳥川など水辺環境の保全、昆虫や野生生物などの生態系について学べる機会を充実する取り組みをボランティア団体等と協働で進める。	地球温暖化や環境破壊等により自然環境が大きく変化し、ライフスタイルも多様化していくなかで自然環境も減少し、子どもたちも自然から離れていく傾向にあります。多様な生き物が生息している里地・里山を保全・活用すると同時に教育普及の促進が必要。
これまでの成果	昆虫館周辺の里地・里山の整備、及び昆虫や植物等の生物相調査をボランティアとの協力により継続に行っている。飛鳥川等の河川では、地元小・中学校の生徒や関係課の依頼等により環境調査及び観察教室を行っている。	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標年度)	備考欄
		実績	目標	実績	目標	目標	
指標の推移	施策指標① (成果指標)	37	35	50	35	35	
	施策指標② (成果指標)	44	26	24	26	26	
	施策指標③ (成果指標)	69832	73000	68676	74000	75000	
	施策指標④ (成果指標)						
	施策指標⑤ (成果指標)						
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
	歳出 (直接事業費)(a)		9,926	15,638	16,669	15,275	
	歳入 (b)	受益者負担額	1,014	1,002	992	1,002	
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)	0	4,625	3,368	3,897	
	(a) - (b) = 一般財源		8,912	10,011	12,309	10,376	
	正職員	従事者数 (単位:人)	5.55	5.55	5.60	5.70	
		人件費(c)	36,075	32,207	32,497	33,077	
トータルコスト (a) + (c)		46,001	47,845	49,166	48,352		

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性はどうか	2	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	昆虫館周辺の里地・里山においてボランティア団体と協働で継続的に整備活動を行い、調査や観察会においても活用できている。地元の小・中学生との水辺の生き物調査や出前講座等を通じ地域との連携が図れ、周辺環境や保全が進み自然体験や散策等に活用できるようになり、人と自然が共生できる地域づくりに向けての取り組みは進んでいる。				
	市政全般に対する貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	自然や環境、生物多様性を保全し、様々な生物が暮らせる環境づくりが進められている中で、昆虫や野生生物等に関する特別展企画展等の展示や生物調査、観察会等を実施することで、自然環境の情報発信、地域生涯学習を行う拠点としての貢献度は高い。				

6. 施策の課題

この施策の課題	大和三山をはじめ鎮守の森や飛鳥川等の河川等、多様な生き物が生息している自然豊かな環境ですが、生物調査が十分に行われていないところもあり、地域協議会やボランティア団体、中学・高校の科学部の生徒と協働で進め、多様性の高い自然環境を保全するしくみづくりが必要です。
---------	---

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	2	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	里地・里山は整備・管理を続けていかなければ生態系を良い状態に維持できないため、地域協議会やボランティア団体と協働で継続していく。また、地元小・中学生や学校との連携を図り、水辺や里山の生き物調査を実施し、自然環境情報の集積・発信の拠点としての機能を充実させ生物多様性を保全しながら、人と自然が共生できる地域づくりを図っていく。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	人と自然が共生できる地域づくりを進めていくには、地域の自然についての調査と資料収集、標本類等の資料等管理事業や、昆虫類の飼育展示業務を行う基礎的な調査研究業務が必要である。その成果を企画展や来館者、学校での出前授業等の教育普及事業で還元することで、多角的に生物多様性の重要性について啓発しながら市民の意識を高めていくことができる。自然環境の情報集積・発信拠点としての機能を充実させるため、各事務事業を効果的に展開し、見直ししながら調整を行い継続していく。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度—事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性—事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)—施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)				施策評価		
NO.	課名、事務事業名及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及びH27決算額	貢献度	方向性	優先度(ソフト任意)
1	産業振興課 里山林機能回復整備事業 (ソフト(任意))	奈良県より補助を受けて、里山林の整備を希望する所有者と整備活動を行う団体とを森林バンクに登録する事務を行い、双方合意の上で整備協定を手配し、里山林の機能回復を図る。 林業の不振から適切な管理(施業)が行われていない森林を間伐し、森林の公益的機能の維持増進を図る。	2 現状のまま継続 3,233 (千円)	b	見直しながらかつ続ける	C
	昆虫館 環境教育普及事業 (ソフト(任意))	自然環境や生物多様性について理解を深めるため、日々の調査の成果を基に野外観察会やゼミナール等のイベントを実施する。特別展や企画展を開催し、調査研究のデータや標本等を展示し生涯学習に虫いっばいの里山を目指しボランティアグループと協力しながら情報発信を行う。様々な世代が里山づくりに長く関わることができる仕組みをつくる。	2 現状のまま継続 2,262 (千円)	b	見直しながらかつ続ける	B
3	昆虫館 資料等管理事業 (内部管理・維持管理)	博物館業務のひとつとして、生態系の理解や保全のための生物調査を行い採集した動植物の資料収集・収蔵業務があり重要である。貴重な資料を適正に分類保管し、収蔵資料の情報発信を行う。	2 現状のまま継続 338 (千円)	b	見直しながらかつ続ける	
	昆虫館 生態系及び動植物の分布調査と研究事業 (内部管理・維持管理)	市内の大和三山やため池、用水路等の動植物が生息しているフィールドを市民やボランティア団体、小学校等と連携しながら自然環境や生態系の保全、緑の基本計画、農地の多面的機能に配慮し生物調査を行う。調査等のデータを蓄積し、展示を行うことで生態系の理解や保全、自然環境や生態系の学習、情報の収集・発信を行う。また、万葉集で謳われている植物を考慮した整備を協働で進める。	2 現状のまま継続 6,715 (千円)	a	見直しながらかつ続ける	
5	昆虫館 生態飼育業務 (内部管理・維持管理)	生態系の調査・採集等を行い、採集した昆虫に適した環境をつくり餌も工夫するなどして与え、飼育方法についてもマニュアル化し、最も効率的な飼育方法を見つけ、飼育方法を確立させる。	2 現状のまま継続 2,285 (千円)	b	見直しながらかつ続ける	
	昆虫館 生物多様性保全活動推進事業 (ソフト(任意))	生物多様性地域戦略を策定するため、平成27年度は基礎調査業務を行い、戦略の基本的な方向や戦略素案の作成を行なった。	1 拡大する 1,836 (千円)	a	見直しながらかつ続ける	A

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年 5月 30日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	里山林機能回復整備事業						
	担当部名	魅力創造部	担当課名	産業振興課	課長名	北野 哲也		
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち				
		施策	8	人と自然が共生できる地域づくり				
	予算事業名	農業振興事業費						
	事業の開始年度	平成	年度	事業の終了予定年度	平成	年度		
	対象	里山林整備団体・森林組合		事業の内容説明	奈良県より補助を受けて、里山林の整備を希望する所有者と整備活動を行う団体とを森林バンクに登録する事務を行い、双方合意の上で整備協定を手配し、里山林の機能回復を図る。 林業の不振から適切な管理(施業)が行われていない森林を間伐し、森林の公益的機能の維持増進を図る。			
	事業の目的	住民の自主的な参加等により、里山林の保全・整備及び活用の促進を図る。						
	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)				
			説明	県費補助事業であり、補助事業者は市町村である必要がある。				
市の関与の必要性を評価してください		やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い	
		説明	整備活動を行うボランティア団体等へ補助及び委託ができない。					
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		26年度	27年度		28年度	29年度(総計目標)
				実績	計画	実績	見込み	見込み
	成果指標	機能回復面積(ha)		0.66	11.51	7.86	9.91	1.66
	活動指標①	里山林整備団体		1	2	2	2	2
	活動指標②							
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算
		歳出(直接事業費)(a)			115	4,449	3,233	3,848
		歳入(b)	受益者負担額					
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)			4,625	3,368	3,897
		(a) - (b) = 一般財源			115	-176	-135	-49
正職員		従事者数(単位:人)		0.05	0.05	0.20	0.20	
		人件費(c)		325	290	1,161	1,161	
トータルコスト(a)+(c)			440	4,739	4,394	5,009		
単位当たりコスト	計算式等 ()/()							
備考(これまでの実績等)								

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	3	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	整備活動は必要であるが、活動範囲が限られている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	自然との共生を図る上では必要である。							
評価	効率性評価		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください			説明	人件費を除き100%県費補助対象であるため、コスト削減の余地はない。					
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		県、整備団体との連携をさらに密に行い、今後も継続していく。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	B
4 廃止又は休止する				5 完了する						
		説明	自然環境を保全するため、里山林の適正な整備・育成により、機能回復を図る。							

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年6月1日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	環境教育普及事業								
	担当部名	生涯学習部	担当課名	昆虫館	課長名	木村 史明				
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち						
		施策	8	人と自然が共生できる地域づくり						
	予算事業名	昆虫館管理運営費								
	事業の開始年度	平成	1	年度	事業の終了予定年度	平成	年度			
	対象	市民、ボランティア、小学校								
	事業の目的	自然環境が減少していく中で、子どもたちが自然から離れていく傾向にあります。そのため里山や水辺等の環境保全と活用を進め、命や自然の大切さを感じたり学べる拠点としてイベント等を実施し、環境教育の普及や学習機会の充実を図る。			事業の内容説明	自然環境や生物多様性について理解を深めるため、日々の調査の成果を基に野外観察会やゼミナール等のイベントを実施する。特別展や企画展を開催し、調査研究のデータや標本等を展示し生涯学習に虫いっばいの里山を目指しボランティアグループと協力しながら情報発信を行う。様々な世代が里山づくりに長く関わることができる仕組みをつくる。				
	市の関与の必要性を評価してください	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)						
			説明	自然環境が減少していく中で、博物館が昆虫を中心として取り組む自然環境教育に対する期待は大きく、命や自然の大切さを感じ、学べる拠点として行っていく上で、社会的役割としての責務がある。市が関与することにより、学校現場との連携がとりやすく学べる拠点としても効果も大きい。						
やめた場合の影響は		2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
		説明	小学校施設との連携が困難となり、理科離れや自然環境に対し無関心が拡大し、貴重な環境教育等の学習の場が失われる。							
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)	
				実績	計画	実績	見込み	見込み		
	成果指標	講座受講者数(人)			1,863	1,600	1,992	1,700	1,700	
	活動指標①	観察講座開催回数(回)			37	35	50	35	35	
	活動指標②	特別展・企画展入館者数(人)			63,192	64,000	71,627	64,000	64,000	
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出(直接事業費)(a)			1,975	1,751	2,262	1,758		
		歳入(b)	受益者負担額			32	20	10	20	
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)							
		(a) - (b) = 一般財源			1,943	1,731	2,252	1,738		
正職員		従事者数(単位:人)			1.50	1.50	1.50	1.50		
		人件費(c)			9,750	8,705	8,705	8,705		
トータルコスト(a)+(c)			11,725	10,456	10,967	10,463				
単位当たりコスト	計算式等 (トータルコスト)÷(活動指標①)			317	402	219	402			
備考 (これまでの実績等)	市内等の小学校へのお出前授業を実施し、学校現場との交流と教育普及活動を行った。									

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	観察会やゼミナール等を実施することにより、市民との交流やモンシロチョウの飼育教材による学習支援授業により、学校現場との交流を積極的に行っている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	昆虫館の里山がボランティア活動により、整備された自然空間を観察会などで利用し、生涯学習や環境教育の場として提供することで地域との交流や自然との共生を学べる生涯学習の充実を図る。							
評価	効率性評価		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	コストの大半は人件費であるため、イベントにはボランティアからの参加を募り協力をしていただき、昆虫館職員数を最小限で対応し、コストダウンしながら対応している。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		観察会やイベント等の企画運営については、通常業務に加えて限られた人員で運営しなければならないため、イベント開催時になると職員のみでの対応に限界がある。職員の人員配置を考えつつ、ボランティアの方に参加していただきながらイベントの効果が最大限発揮できるようにする。榎原市内の小学校の出前授業には、モンシロチョウの飼育教材の使用や学校のニーズに合った学習支援授業を行うことで、教育普及活動や環境教育に貢献できる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		C
説明		市民参加によるイベントの企画を計画し、学校との連携を続けていく。職員の配置人員を考慮し、ボランティアからの参加を募ることで人件費のコスト軽減を行い、ボランティア活動からの提案も盛り込みながら、体験型事業も企画し参加者の増加を図る。								

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年6月1日)

事業の種類を選択してください。⇒ (内部管理・維持管理) 事業

PLAN
計画

事務事業名	資料等管理事業						
担当部名	生涯学習部	担当課名	昆虫館	課長名	木村 史明		
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち				
	施策	8	人と自然が共生できる地域づくり				
予算事業名	昆虫館管理運営費						
事業の開始年度	平成	1	年度	事業の終了予定年度	平成		年度
対象	昆虫館入館者、昆虫館職員			事業の内容説明	博物館業務のひとつとして、生態系の理解や保全のための生物調査を行い採集した動植物の資料収集・収蔵業務があり重要である。貴重な資料を適正に分類保管し、収蔵資料の情報発信を行う。		
事業の目的	昆虫資料・標本の収集と収蔵保管の充実を図り、収蔵標本の情報発信を行う。						
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業					
		2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)					
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	説明					
		1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い		
説明							

DO
実施

指標の推移	名称及び単位等	26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)
		実績	計画	実績	見込み	見込み
成果指標						
活動指標①	収蔵書籍数(冊)	101,500	101,700	101,600	101,800	102,000
活動指標②	標本数(匹)	48,200	48,300	49,800	49,900	50,000
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算
	歳出(直接事業費)(a)		643	342	338	339
	歳入(b)	受益者負担額				
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)				
	(a) - (b) = 一般財源		643	342	338	339
	正職員	従事者数(単位:人)	0.80	0.80	0.80	0.80
		人件費(c)	5,200	4,642	4,642	4,642
	トータルコスト(a)+(c)		5,843	4,984	4,980	4,981
単位当たりコスト	計算式等 ((トータルコスト)/(活動指標②))	0.212	0.103	0.100	0.100	
備考 (これまでの実績等)						

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	市が関与していることで一般市民より貴重な標本資料の提供があり、寄贈された貴重な標本などは特別展や企画展等に展示活用し、博物館の責務として公開している。自然や生き物についての啓発や情報提供をしている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	今では手に入りにくい標本展示や地域特有の標本展示をすることで、自然環境の変動や生物の多様性に関することについて学ぶことができ、人と自然が共生できるまちづくりについて理解が高まる。							
評価	効率性評価		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください			説明	標本を管理している設備等にかかるコストと人件費のため、低減の余地がない。					
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		収納スペースが確保され、標本の整理や書籍の収蔵のためのスペースが広がったが、橿原市内の動植物の資料が少ないことから定期的に調査・研究を行い収集を行う。更に、昆虫館情報システムにデータ入力し、有効活用することで、地域の自然環境の変化などについて学ぶことができる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		
説明		標本資料は情報の源であり、博物館施設の肝である。リニューアルに伴い収蔵スペースに余裕があるが、標本の整理が遅れている。人員の増員が難しい中、現行の体制で少しずつ整理を進めていく。さらに学校団体への貸出しや出前授業にも有効に活用する。								

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年6月1日)

事業の種類を選択してください。⇒ (内部管理・維持管理) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	生態系及び動植物の分布調査と研究事業								
	担当部名	生涯学習部	担当課名	昆虫館	課長名	木村 史明				
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち						
		施策	8	人と自然が共生できる地域づくり						
	予算事業名	昆虫館管理運営費								
	事業の開始年度	平成	1	年度	事業の終了予定年度	平成	年度			
	対象	昆虫館職員、地域住民、ボランティア、小学校			事業の内 容説明	市内の大和三山やため池、用水路等の動植物が生息しているフィールドを市民やボランティア団体、小学校等と連携しながら自然環境や生態系の保全、緑の基本計画、農地の多面的機能に配慮し生物調査を行う。調査等のデータを蓄積し、展示を行うことで生態系の理解や保全、自然環境や生態系の学習、情報の収集・発信を行う。また、万葉集で謳われている植物を考慮した整備を協働で進める。				
	事業の 目的	職員や地域住民、ボランティア団体、小学校が協働し、昆虫をはじめとする動物や植物の生態や分布調査及び採集を行い、調査結果等を特別展や企画展、常設展示に反映し、市民(入館者)に還元する。また、動植物の生態や分布や採集した昆虫類の飼育、植物の栽培をとおして技術の向上に努める。								
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業							
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
市の関与 の必要性を 評価してく ださい	やめた 場合の 影響は	説明								
				1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い			
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)	
	成果指標				実績	計画	実績	見込み	見込み	
	活動指標①	研修会の参加回数(回)			10	9	11	9	9	
	活動指標②	調査回数(回)			14	6	12	6	6	
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出(直接事業費)(a)			4,336	4,483	6,715	4,641		
		歳入 (b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)							
		(a) - (b) = 一般財源			4,336	4,483	6,715	4,641		
		正職員	従事者数(単位:人)			2.10	2.10	2.00	2.10	
人件費(c)			13,650	12,186	11,606	12,186				
トータルコスト(a)+(c)			17,986	16,669	18,321	16,827				
単位当 りコスト	計算式等 (トータルコスト)÷(研修会の参加回数)			1,799	1,852	1,666	1,870			
備考 (これまでの 実績等)										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	ボランティアグループ等と協力を図りながら、昆虫館周辺の雑木林の整備を行い、観察会や調査を実施するとともに、情報発信や啓発を行っている。地元の学校団体や地域と連携をし、河川等の調査を実施した。						
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	飛鳥川流域等の調査を行い、水辺環境に取り組む各種団体や学校等と連携を図り、飛鳥川を中心とした水に親しむ川づくりを協働で進めており貢献度は高い。						
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない		
		説明	各種団体や学校等で連携をし、調査や研究を協働で行うことで、調査が効率よく進められる。コスト等については、多くの団体に連携を求めることでコスト低減を図る余地はある。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		大和三山をはじめ、市内に点在する鎮守の森、飛鳥川をはじめとする河川、ため池、用水路を含む農地にも多くの生き物が生息していることから、地域住民、ボランティア団体、小学校と連携をし、生物調査を実施することにより、広範囲でデータが得られる。また、自然環境や生物多様性について、保全や活用を推進することにより住民の関心が広がる。						
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度
説明		市内の動植物が生息しているフィールド調査など、予算軽減を考慮するたに地域住民やボランティア団体、小学校等と連携を図りながら生物調査を行う。							

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年6月1日)

事業の種類を選択してください。⇒ (内部管理・維持管理) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	生態飼育業務								
	担当部名	生涯学習部	担当課名	昆虫館	課長名	木村 史明				
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち						
		施策	8	人と自然が共生できる地域づくり						
	予算事業名	昆虫館管理運営費								
	事業の開始年度	平成	1	年度	事業の終了予定年度	平成	年度			
	対象	昆虫館入館者、昆虫館職員			事業の 内容説明	生態系の調査・採集等を行い、採集した昆虫に適した環境をつくり餌も工夫するなどして与え、飼育方法についてもマニュアル化し、最も効率的な飼育方法を見つけ、飼育方法を確立させる。				
	事業の 目的	累代飼育を中心に生態(昆虫の生活している状況)を人工的に作り維持して飼育する。								
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業							
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
市の関与 の必要性を 評価してく ださい	やめた 場合の 影響は	説明								
		1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)	
	成果指標				実績	計画	実績	見込み	見込み	
	活動指標①	飼育・展示種類数(種)			114	95	106	95	95	
	活動指標②	年間放蝶数(匹)			10,444	11,000	10,000	11,000	11,000	
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出(直接事業費)(a)			2,857	2,755	2,285	2,881		
		歳入 (b)	受益者負担額			982	982	982	982	
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)							
		(a) - (b) = 一般財源			1,875	1,773	1,303	1,899		
		正職員	従事者数(単位:人)			1.10	1.10	1.10	1.10	
人件費(c)			7,150	6,383	6,383	6,383				
トータルコスト(a)+(c)			10,007	9,138	8,668	9,264				
単位当 りコスト	計算式等 (トータルコスト)÷(活動指標①)			88	96	82	98			
備考 (これまでの 実績等)										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	飼育は種の数が増え安定しており、定期的に昆虫や生き物の展示替えを行うことができた。昆虫等に直接ふれあうことができる体験型展示を実施することにより、入館者の満足度が高く、概ね十分な成果が出ている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	いろいろな種類の昆虫を飼育・展示することで生物多様性や生息環境について学習することができ、また、昆虫館周辺をボランティアが中心となり、整備・管理し、フィールドミュージアムに向けて進め、人と自然が共生できる地域づくりを図ることで、貢献度は高い。							
評価	効率性評価		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	展示効果を向上させることで、生態展示を拡大し、施策の貢献度を高めるには、より多くの生きた昆虫(種類)が必要である。また、非常勤職員と他館へ積極的に交流を行い、マニュアル化を図ることで飼育技術の向上や、人件費の低減に繋がる。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		累代飼育による生態展示を行っているが、累代飼育を続けると近親交配による病気の発生が多くなるなどの弊害がでてくる。何度も現地で昆虫を採集することは困難であり、採集困難な昆虫は購入あるいは、無償提供を受けている。また、最近では、外国産の昆虫(カブトムシやクワガタムシ)を飼育されている方々からの提供も多く、他の施設に協力を求めることにより、飼育困難な場合の受け入れの連絡態勢を工夫することで、安定した生態展示が期待できる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する			情報コーナーやイベントを活用し、生きた昆虫とふれあえる機会を増やす。また、生態展示の昆虫を維持するためには、飼育体制や飼育内容の充実も図る。			

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年6月1日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	生物多様性保全活動推進事業						
	担当部名	生涯学習部	担当課名	昆虫館	課長名	木村 史明		
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち				
		施策	8	人と自然が共生できる地域づくり				
	予算事業名	環境対策事業費・昆虫館管理運営費						
	事業の開始年度	平成	27	年度	事業の終了予定年度	平成	年度	
	対象	全ての市民			事業の 内容説明	生物多様性地域戦略を策定するため、平成27年度は基礎調査業務を行い、戦略の基本的な方向や戦略素案の作成を行なった。		
	事業の 目的	様々な立場の人々がお互いに協力し合っ、地域固有の生物多様性を守ると共に、農業、商業、観光、交通など自然や文化等の地域特性を活かした地域の活性化につながる活動を実践し、文化財保護、自然や景観、環境の保全など豊かな生物多様性の保全活動を推進することを目的とする。						
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)				
			説明	平成24年9月に、自然と調和の取れた恵み豊かな環境を確保し、生物の多様性を損なうことなく、環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会が構築されることを基本理念とした環境基本条例を制定。平成25年3月に環境総合計画を策定し豊かな歴史文化と自然環境を守り育てるまちを基本目標としているため。				
市の関与の 必要性を 評価してく ださい		やめた 場合の 影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い	
		説明	生物多様性を損なうことで、恵み豊かな環境は破壊され、地球温暖化の二の舞になりかねない。また地域の人口減少も歯止めがかからず、限界集落を助長することになる。					
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等		26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)
				実績	計画	実績	見込み	見込み
	成果指標							
	活動指標①	生物多様性啓発回数			1	1	3	5
	活動指標②							
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算
		歳出(直接事業費)(a)				1,858	1,836	1,808
		歳入 (b)	受益者負担額					
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)					
		(a) - (b) = 一般財源				1,858	1,836	1,808
正職員		従事者数(単位:人)						
		人件費(c)						
トータルコスト(a)+(c)				1,858	1,836	1,808		
単位当 りコスト	計算式等 (トータルコスト)÷(活動指標①)			1,858	1,836	603		
備考 (これまでの 実績等)								

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	地域資源を活用した産業の活性化、都市部と農村部との交流、地域資源の再認識によるコミュニティの再構築が期待出来る。飛鳥地域の豊富な歴史的文化的遺産を背景として、豊かな自然環境を認識し、地域が抱える課題を乗り越え、地域の活性化を図ることが出来る。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	橿原市環境基本条例に基づく橿原市環境総合計画 基本目標2(豊かな歴史文化と自然環境を守り育てるまち)の下位計画として位置づけることが出来る。横断的な計画であることから、市及び周辺地域の農業・商業、教育、環境、文化財、自然、景観、観光、交通の施策へも貢献が出来る。							
評価	効率性評価		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	事業によっては手法を見直すことにより、事業の進捗度を推し進めることができ、さらに事業が向上する余地はある						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		地域戦略を策定することにより、生物多様性を基礎とする地域固有の美しい風景やそれに基づく豊かな文化を再発見することで、地域への誇りや愛着の感情を引き起こし、人を引きつけ、地域の活力の発展につながる。例えば、自然環境を歴史・文化とともに守り活かすエコツーリズム、地場産業や地元企業のブランド力の向上など、関連を見いだし地域活性化につなげることが期待できる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B
説明		地域における多様な主体が有機的に連携して行う生物多様性の保全のための活動の実行計画である「地域連携保全活動計画」を地域戦略とあわせて作成し、保全活動の促進に寄与する活動を推進する。								